

鐘華会九州支部だより

九州支部だより 第9号
発行 2005年11月17日
発行者 中村 晃

奈良の風景（2）

石原 晋一郎



灯火会・浮見堂の夜景



ライトアップされた仁王像



秋の東大寺

<会員の広場>

「雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ < 暑サ寒サニモ >」

広 政 誠

宮沢賢治の詩を、評論しようとしているのではありません。実はウォーキングの話です。

9月30日で連続2821日1日も休まず毎日約50分・5km歩いています。

(6月21日にカネカ保険センターを退任してからは、1時間10分・1万歩を日課にしています。)

さて何故歩き始めたか？

- 1) 好きなゴルフの後半になると足がつる「こむらがり」に悩まされて、13年前にジョギング開始
- 2) ジョギングだと継続が難しい。そこで平成10年1月8日東京の大雪の翌日から一念発起スタートしました。雨の日は傘をさし、旅行・出張にはシューズを持参、当然ゴルフの日も。

当初の目標は僧侶の修行である千日回峰まで、次は凡人なら2倍までと続けましたが、今では3,000日近くまで。

「歩き症候群」とも揶揄されもしたが、良く続いていると自分を誉めてやりたいくらいです。これからは出来るだけ続けるつもりです。

次に効果？ 私の1日は23時間。1時間は綺麗な(?)空気を胸一杯に・頭も一層空っぽにして、汗をかきながら自然の中にいます。ある本には脳にも良いとかいてありましたが、私には実感がありません。偶然なのだろうが発熱などの歩けないほどの病気はなく、健康診断も今のところ異常ナシ。10年間の禁酒から3年前に解禁して肥満になりましたが、是だけはウォーキングではいかんともし難く、今後の課題です。食事療法しか？

どなたかアドバイスがあれば宜しく。

注意点：靴だけは良いもの特に靴底のクッション性のあるものを選んで下さい。膝に負担がかかりますから。最初服装は気にせず普段着で気楽に始めたら如何？ 距離・時間（最低20分はしたいが）・早さも気にせず、毎日为目标に継続が大切だと思います。長く続けるには記録する事も良いと思います。

最後に、とにかくお金がかからず、日々自然と向かい合い四季の変化・小鳥や魚たちとの出会いなど等楽しい事があり又苦しい時にも少しの気分転換もなります。行き交う人との簡単な挨拶も気持ちがいいものです。精神的にも健やかな日を送りたいものです。

生まれたからには老・病・死は避けられませんが、足は第二の心臓と言われ歩く事で鍛え「ただ生きているだけの人生」でなく、限りなく明るいものでありたいと願っています。



< 会員の広場 >

北へ（稚内・礼文島・利尻島紀行）

市 木 丞

「稚内は、日本のてっぺん北の果てなので、これより北には日本の町や土地はありません。だからもう急ぐこともないのでゆっくりしてくといひですよ」と最北の街・稚内市が発行している小冊子に案内している。

人口 43,000 人の小さくて静かな街でした。旅の始まりです。

稚内駅

最北端の街の終着駅。宗谷本線の線路のこの先にはもう線路はありません。夕やみの中、到着ホームに立ったとき一抹の淋しさを感じさせる駅でした。

稚内公園

小高い山上にあって、海岸線に沿って広がる市内の街並みを一望できる。

南極観測隊で活躍した樺太犬タロ・ジロウの顕彰碑や供養塔をはじめ、樺太への望郷の念と樺太で亡くなった日本人を慰霊するために建立された「氷雪の門」など多くの記念碑があり感慨深いものがあつた。中でも「九人の乙女の碑」その碑文は断末魔の叫びにも聞こえる。

「皆さん これが最後です。さようなら さようなら」と刻んであつた。

これは昭和 20 年 8 月 20 日旧ソ連軍の侵攻を受けた樺太で最後まで電話交換手として任務を果たし自ら薬物を服用し命を断った 9 人の女性交換手達の慰霊碑でした。

幸いにもこの慰霊碑がほかのいくつかの碑と比べると心なしか献花の数が多いように見えたのが、せめてもの慰めであつた。そして、この碑が戦争の悲惨さと残忍さを物語るものであり、万感に迫るものがあつた。

この北海道を舞台にした作（氷点・塩狩峠等）を世に多数送り出した、作家三浦綾子さんの著書「天北原野」のなかに真岡郵便局（樺太）の電話交換手 9 人が職場を死守し集団自決したくだりがある。

宗谷岬・北緯 45 度 31 分へ

岬へと向かうバスから、なだらかな宗谷丘陵でのんびりと草を食（拉）んでいる宗谷黒毛和牛を車窓から眺めていると、バスは日本最北端の地、宗谷岬に着いた。

生憎の天候で初冬を思わせる灰色の雲が低く重く垂れ込み北国特有の空模様だった。

晴天であるならばオホーツクの海に浮かぶサハリン（樺太）の島影を遠望出来たろうにと、こころ残りの時間でした。

この岬には「宮沢賢治文学碑」や「世界平和の鐘」など無数のモニュメントが林立している。

中でも、目を引いたのが「間宮林蔵の立像」であつた。日本人で、ただ一人世界地図に個人名が刻まれている。文化 5 年（1808 年）に初めて宗谷から樺太へ渡り、樺太が島であることを発見した偉大な人物です。ロシアとサハリン西岸の探検の功績を責えて、この海峡を「間宮海峡」と命名されている。

礼文島へ……海の上の北方植物園

日本の北のてっぺんの町、稚内港から海路で 150 分で礼文島（香深港）につきます。船上からは利尻山（利尻島）をながめ乍ら群れ飛んでくるカモメと戯れていると時間の長さを感じさせない。

礼文島は南北に 30km・東西に最大で 8km の細長い島です。南からは対馬海流が北からはリマン海流が沿岸を洗い海水は一段と青く、冷たく、澄み切って見事と言う他はない。

この島の最高地点は礼文岳（490m）でなだらかな丘陵地をなしている。この、礼文島にはそれぞれの目的と健脚にあわせて 7 つのトレッキングコースが設定されている。

最長は 8 時間強を要する難コースもある。今回、わたしが歩いたのは「桃岩展望コース」と「元地海岸コース」。この 2 コースを巡り島の自然



の雄大さに感動しきりでした。この島は本土の2,000m級以上の高山でしか見られない可憐な高山植物が春から夏の終わりにかけて咲き・散り、百花繚乱の呈をなすそうです。

熊や鹿がいないので草花の楽天地なのです。どこを歩くにも足元の花達に気配りが肝要でした。

桃岩展望コース

北西の風が強く、そして冷たく吹きつけるならかな丘陵地を、ほぼ初冬の冬支度姿で展望台（250m）へと登り始めると、道々には礼文島の固有種の花達が鳳に吹きさらされ乍らけなげに咲き誇っていた。

「エゾ・ウスユキソウ」「レブン・ハナシノブ」「ツル・アジサイ」「エゾ・キンバイ」「イブキ・トラノオ」「エゾ・ツガサクラ」「チシマ・キンレイカ」など数10種の珍しい高山植物が咲き乱れていました。

この島の最高点がわずか490mでしかない所で何故にこれほどの高山植物が群生しているのか不思議です。海の上の植物園でした。

元地海岸コース

烈風が吹きつけ凍てる海。自然の力が成し創作した奇岩の桃岩・招きねこの形をした猫岩・さらに地蔵菩薩にどこなく風貌がよく似た地裁岩などを遠くに、そして近くで眺めて歩き、北の冬の厳しさを垣間見ることが出来た。道々に、そのすさまじい冬の厳しさに耐えた花たちが短い夏を惜しむが如く爛漫と咲き乱れていた。

・スコトン岬・・・
礼文島最果ての岬・・・やたらに風が強い。季節がらトドは見られなかった。

・瑠璃（めのう）海岸・・・メノウ原石が打ち寄せる海岸・・・残念、探せなかった！！

利尻島へ

礼文島（香深港）から利尻島（鴛泊港）までフェリーで約50分。穏やかな海路だった。この時節大きな時化はないそうだ。利尻島と聞いて一番に思い起こすのはやはり「利尻昆布」であろう。

「利尻昆布」と言うのは学名だそうです。

利尻島周辺で水揚げし加工される物すべてを指

すそうです。当然「羅臼昆布」も「日高昆布」も同様らしい。島内で砂浜のある海岸ではその砂浜に砂利を敷き詰めた昆布の干し場を見ることが出来る。砂利の上に干すのは昆布の乾燥を良くするためらしい。面白いことに海岸に打ち上げられた昆布を勝手に拾い私物にすれば密漁になる！！

また、山登りが好きで深田久弥の「日本の百名山」を一読し、またその写真を見たことのある人ならその秀麗な山姿を思い出させる事でしょう。利尻岳（別称・利尻富士）1722m実に美しい山姿です。その深田久弥氏は著書の中で利尻岳のことを次のように表している。

「礼文島から眺めた夕方の利尻岳の美しく烈しい姿を、私は忘れることが出来ない・・・」と書いている。

見返り台登山口

山に少しでも近寄りたくて、観光バスに乗りアカエゾマツの林道を抜けて行くと5合目（450m）登山口に着きます。また、ここからの眺めがさらに山姿の秀麗さと緑の美しさが感動的でした。

バスの車窓から見た木々の中にも、そして、登山道の周りには利尻岳の固有種である「リシリゲンゲ」「リシリヒナゲシ」などの花達が短い夏を精一杯に咲き誇っていた。静かな林の中からは留鳥の「クマゲラ」や「アカゲラ」の鳴き声が聞きと

れた。

・一島一山

この利尻島は周田63kmの「一島一山」です。九州にも「一島一山」で有名な屋久島です。

洋上のアルプスと言われ世界遺産にも登録されています。この屋久島（宮浦岳1935m）

も登山するには、北の山と同じように厳しい天候との戦いがある。この屋久島は「多雨多湿」で雨の多い山です。雨の多いことを例えて屋久島は「ひと月に35日」雨が降ると言われ登山には難渋するものです。

・利尻岳

この山には幾つかの呼び名がある「利尻岳」「利尻山」「利尻富士」とそれぞれが親しみを込めてよんでいる。夏の利尻岳には北西の風が吹き付け、や



せ尾根（馬の背）には立って居られない位に風強いそう。私が訪れた日は快晴であった。利尻の町から双眼鏡で覗いてみても・その厳しい風雪に曝され厳しさに耐えた姿が歴然としていた。遠くから見る秀麗さとは違った姿を見せた。

そのガレ場や切り立った岩と岩の間には、未だに残雪を見る事ができた。この残雪も8月初めには消えてしまうが9月末～10月初めには初冠雪を迎えるそう。厳しい冬の訪れでもある。

利尻岳へ

威風堂々としたこの山へのルートは「杓形ルート」「鴛泊ルート」がある。どちらのルートを辿っても最低10時間を要する難コースらしい。利尻岳は秀麗さの中に「一島一山」特有の荒々しい風貌で裾野に広がる眼下の町並みを睥睨している。しかし、一方では穏やかに裾野を広げている山容は利尻富士と呼ばれ崇められている所以であろう。

・漁協はあるが農協のない島

礼文島も利尻島にもたんぼがないのです。耕地と言えば家庭菜園程度の畑のみです。魚介類以外の食品の大半を道内からの移送品に頼っているのです。魚介類は豊富です。うに・カニ・イクラ・タコイカ・ホッケ等が新鮮で美味で最高でした。

・オタドリ沼

アカエゾマツに周囲を囲まれた円形で静かな美しい沼です。幸いにも晴天に恵まれて青々とした静かな水面に美しい姿の利尻岳を映していた。

・姫沼～湿原

島の花は4月～8月にかけて湿原・低地・高山とそれぞれの場所で順送りに開花していくそう。この姫沼には「ワタスゲ」「ハナショウブ」などを中心に色とりどりの花が盛りでした。期待していた「ハナショウブ」は残念ながら時を過ぎていた。

終わりに

礼文島・利尻島を中心の短い旅でしたが、そこに住んでいる人たちの自然保護に対する監視と関心の高さがあったように思う。また、至るところに歴史を感じさせ、思い起こさせる史蹟が残っている。もういちど行って見たいと思わせる島でした。



能古島ハイキング報告

春先に予定していた能古島ハイキングが3月20日の福岡・西方沖地震で中止になりました。

今回、10月6日午前9時50分地下鉄姪浜駅集合し、福岡市営能古渡船場10時10分発の渡船（往復440円）10分の船旅（？）で能古島漁港に到着しました。

渡船場および漁港には地震のため段差補修とがあちこちありました。

10時30分島を時計回りに出発し、途中作家壇一雄氏旧居に立ち寄り、博多湾をへだてて福岡タワー、ヤフードームをのぞみ夜景の美しさを想像しました。

約2時間弱で大汗をかきかきアイランドパークに到着。入園（料金1,000円）し、各自持参の昼食を食べ綺麗に咲いたコスモスをめで、玄界灘を航行する貨物船のぞみ約1時間休息。

漁港をめざして汗をかき海岸を眺めながら歩き午後2時30分ごろ到着。漁港で久しぶりに長時間歩いたためベンチで横になった。

同行6名午後3時発の船に乗り渡船場に到着解散。

楽しい1日でした。今回の企画をして頂いた市木氏ご夫妻に感謝いたします。

植崎 賢治 記

